

令和3年度第1回碧南市障害者差別解消支援地域協議会 会議録

1 日時

令和3年10月22日（金）午前11時50分から午後0時5分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくるダイルーム

3 出席者及び欠席者

(1) 出席委員 10名

碧南市社会福祉協議会 山田 正教（会長）

碧南市手をつなぐ育成会 牧野 昭彦（副会長）

日本福祉大学教授 青木 聖久

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

碧南市民生委員児童委員協議会 三田 恒夫

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長） 水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 長坂 雅也

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 加藤 正昭

ふれあい支援センター 竹内 涼

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

(2) 事務局職員

福祉子ども部長 杉浦 秀司

福祉課長 杉浦 浩二

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子

福祉課社会福祉係主事 澤田 直也

福祉課社会福祉係主事 板倉 尚宏

福祉課社会福祉係主事 亀島 瑞生

4 傍聴者

0人

5 議題

- (1) 令和2年度の取組について
- (2) 令和3年度の取組について
- (3) 令和2年度の障害を理由とする差別に関する事例について
- (4) 県内の相談状況について

6 議事の要旨

- (1) あいさつ（山田会長）

- (2) 議題

- ア 令和2年度の取組について

事務局より会議資料に基づき議題（1）を説明。

- イ 令和3年度の取組について

事務局より会議資料に基づき議題（2）を説明。

- ウ 令和2年度の障害を理由とする差別に関する事例について

事務局より会議資料に基づき議題（3）を説明

- エ 県内の相談状況について

事務局より会議資料に基づき議題（4）を説明し、全ての議題について審議した。

<主な意見・質疑>

意見・質疑等なし

7 まとめ（日本福祉大学 青木聖久 教授）

障害者差別について二点述べたいと思う。

一点目は、合理的な配慮におけるコンセンサスについてである。これについては、周知をすることが大事である。例えば、スーパーマーケットに行く際、事前に店と連絡を取り合い、ラッシュ時を避けて出向く。すると、店側は事前の準備や人員確保ができ、高い位置にあるものを取るなどの配慮をしやすくなる。このような対応をすることで、過度な関わりがなくとも、相手と自分、さらには第三者、社会的にも合意を得ることができる。合理的な配慮とは奥が深いものである。事例のように個別的な対応をすることもさることながら、事業所、学校現場、障害のある方、市民への広報などにおいてもどのように伝え、コンセンサスをとっていくのが重要となってくる。

二点目は、精神障害や発達障害など視覚的にわかりにくい障害を持つ方への合理的配慮についてである。これについては、事前に障害のことについて知っておくことが大事

である。例えば、感覚過敏があるような発達障害の方に関しては、会議中に外の雑音と会議の音声と同じパワーが入ってきたり、授業参観で保護者の香水の匂いが気になったりして息苦しい思いをすることが多いのだが、事前に障害のことを知らないと、その場にいる人でも困っていることに気付きにくい。しかしながら、事前に障害のことを知っておけると、会議や授業の前に席を退室しやすい出口付近に確保しておくなどの配慮ができる。こうしたことで、障害者の方がパニックになってしまうことを防ぎ、障害者側にとっても対応する側にとっても互いに楽になる。

合理的な配慮を考えていく上で、これら二点のような行動も一つの選択としていけると良いと思う。

以上